

第2章 教科領域等における授業実践事例

1 授業実践事例01～15（指導案、活用場面、板書等付き）

事例01 小1 生活科 「わたしの あさがお」

【指導案】 資料提示、カメラアプリ

第1学年 生活科学習指導案

1年1組
指導者

計 29名

1 単元名 わたしのあさがお

2 本時 (7/19)

(1) 目標

- ① あさがおの葉や茎、つるなどの様子の生長の様子を調べる活動に意欲的に取り組むことができる。
- ② 葉や茎やつるの長さなど生長の様子に気づき、友だちに伝えることができる。

(2) 本時の展開に当たって

大切に育ててきたあさがおが、生長していく喜びを友達と共有させるとともに、これからも大切に育てようという気持ちが高まるようにするために、あさがおの変化する様子をタブレット端末カメラ機能を活用して撮影して記録させるようにしたり、友達と気づいたことを話し合ったり、発表したりする場を設定していくようにする。

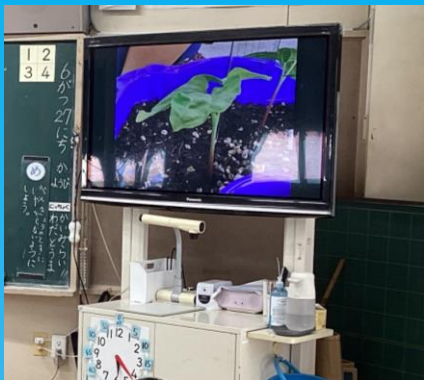
3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ	1 あさがおの様子について振り返る。 ・ 5月に撮影したあさがおの様子をタブレットで見る。	5	D: 5月のあさがおの様子を想起させるために、タブレットで撮影したあさがおの写真を大型モニターに映して見せ、5月のあさがおの様子を思い出させるようにする。 ○ あさがおの生長に気づくことができるようにするために、どこが、どのように変化したのかという視点で見つけるように助言する。
	2 学習問題をつかむ。 あさがおは、どこが、どのようにかわったか みつけよう。 ・ 葉っぱ ・ 茎の高さ ・ つる ・ 蕾 など		
見通す	3 どこが、どのように変化しているか考え、写真に印をつける。 ・ 葉の様子 (枚数, 大きさ) ・ 茎の様子 (大きさ)	30	○ 意欲的に参加できるように、児童の考えから観察する視点を考えていく。 D: 細かい変化にも気付くようにするために、あさがおの写真を拡大したり、見比べたりしながら見つけることができることを例示するようにする。 ○ 自分の意見に自信がもてるようにするために、机間指導中に子どもの発見を称賛するよう声かけを行うようにする。 ○ 発表する際は、タブレットの写真を用いて、全体に聞こえる声で発表するように指導する。 ※ 自分が気付いたことについて視点もち説明している。(発表内容)
	4 あさがおの変化について気づいたことを共有する。 ・ ペア→全体		
調べる	5 本時の学習をまとめる。 あさがおのはのかずはおおく、はやくきは、おおきくなっている。	10	○ 5月のあさがおの様子との変化に気付かせ、生長したことやその喜びを感じられるようにする。また、これまで大切に世話してきたことを賞賛する。 ○ 毎日世話することの大切さに気づき、これからも観察や世話を継続していこうという気持ちが高められるようにする。
	6 本時の学習を振り返る。 ・ これまでを振り返り、これからどのように世話をしていきたいか考える。		
振り返る			
生かす			

4 評価

- ① あさがおの葉や茎、つるなどの様子の生長の様子を調べる活動に意欲的に取り組むことができたか。
- ② 葉や茎やつるの長さなど生長の様子に気づき、友だちに伝えることができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】



【調べる・考える場面】



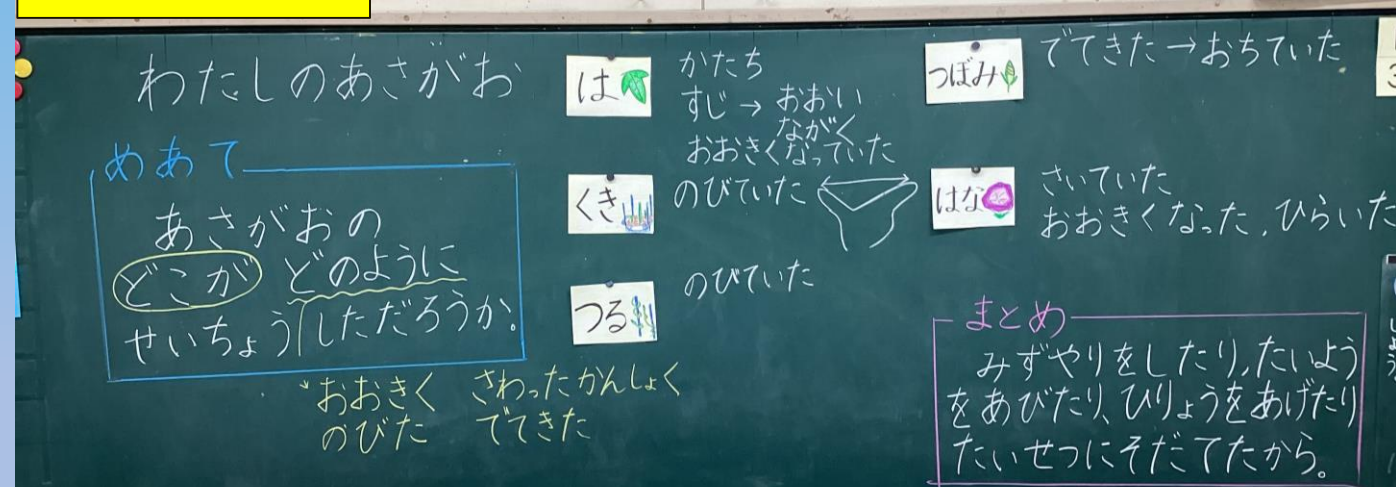
【深める場面】



【振り返る場面】



【板書】



育ててきたアサガオの変化した部分を、写真に書き込むことで、児童の気づきを確認することができた。また、話し合ったり、発表したりする際も、画像を示して友達に説明することができた。

タブレットの操作（写真の撮り方、ロイロノートの操作）は児童によって操作スキルの差があるため、1時間の授業の中で対応することがやや難しかった。時間的なゆとりや操作技能の習熟が必要であると感じた。

事例02 小1 国語科 「おおきく なった」

【指導案】資料提示、カメラアプリ

第1学年 国語科学習指導案

1年2組 30名

指導者

1 単元名 おおきく なった (教材「おおきく なった」光村1年上)

2 本時(3/4)

(1) 目標

- ① 教科書の例文をモデルに、視点をもって観察し、気付いたことを簡単な語句で書く活動に進んで取り組むことができる。
- ② アサガオを観察して気付いたことを適切な言葉を使って表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

視点をもって書くことの手立てとして、アサガオの写真をタブレット端末に映しだして観察したり、実際に見に行き行って観察したりできるように場の設定をする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印:タブレット活用
つかむ 見通す	1 前時の学習を想起する。 ・アサガオの写真をタブレット端末に映す。 2 学習問題をつかむ。 かんさつ につきを かこう。 ・葉っぱの大きさ、色、形、枚数 ・茎の高さ、つるや蕾など	5	D: アサガオの一番新しい画像をタブレット端末に映しだすように指示する。 ○ 本時のめあてに焦点化するために、前時の観察の視点を想起させるようにし、二つの例文のうち一つを選んで観察日記を書くことを知らせる。
調べる 深める	3 一人で自分が書きたい例文の型を選んで文章を書く。 ・観察の観点 いろ かたち おおきさ たかさ ふとさ かず におい さわったかんじ おもさ 4 書き終わったら、ペアで友だちに自分の書いたことや気付いたことを伝え合う。 5 全体の場で友達の書いたものを見て感想を述べる。	35	D: 視点をもって絵や文で表すことができるようにするために、タブレットに映し出されたアサガオの写真を拡大したり、詳しく見たりしながら観察させるようにする。 ○ 実際に見に行ってもいいように、廊下にアサガオを並べておく。 ○ 文章でうまく表せない子どもには、言葉で伝えればよいことを伝えるようにする。 ○ 句点を書いてあるか指導する。 * 視点をもって観察し、適切な言葉で表現している。(ワークシート)
振り返る	6 本時の学習を振り返る。 7 次時は友達の観察日記を読みあうことを知る。	5	○ 本時で学習したこと振り返らせるために、学習した内容でよかったことや楽しかったことなどを発表させるようにするとともに、次時の学習内容について紹介するようにする。

4 評価

- ① 視点をもって観察し、気付いたことを簡単な語句で書く活動に進んで取り組むことができたか。
- ② アサガオを観察して気付いたことを適切な言葉を使って表現することができたか。

事例03 小2 国語科 「同じぶぶんをもつかん字」

【指導案】資料提示、ロイロノート

第2学年 国語科学習指導案

2年1組 30名

指導者

1 単元名 同じぶぶんをもつかん字
2 本時(1/2)

(1) 目標

- ① 漢字には同じ部分をもつものがあることに気づき、進んで見つけ出すことができる。
- ② 漢字の同じ部分を見つけて、書くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

同じ部分をもつ漢字に気づけるよう、教科書の絵の中にある漢字を掲示する。主体的に学習できるよう、タブレットを活用して、見つけた漢字を書く活動を取り入れる。また、友達と協働学習することを通して、同じ部分を見つけての楽しさを味わい、様々な視点があることに気づき、考えを深めることができるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ	1 学習課題に出合う。 ・「木」の部分と同じだね。	10	○ 学習課題に気づかせるために、58ページの漢字を見せ、同じ部分(木)があることに気づかせる。 ○ 学習課題をしっかりと把握できるようにするために、板書事項をノートに視写させ、めあては青で囲むように助言する。
	2 学習問題をつかむ。 同じぶぶんをもつかん字を見つけよう。		
見通す	3 学習の進め方を確認する。 (例) 石・石・見・貝・町・男 ・仲間作りができたよ。 ・他にも同じ部分をもつ仲間がありそうだな。	25	D: 漢字の仲間作りの例題を示し、活動の順序や方法を確かめさせる。 ○ 教科書の巻末資料を紹介し、同じ部分をもつ漢字がまだ他にもあることに気づかせ、学習意欲を高めさせる。
	4 友達と協力して、同じ部分をもつ漢字を巻末資料から探し、話し合っ仲間作りをする。 ・「言」は、いっぱいあるよ。 ・「切」と「刀」は同じ仲間だよ。 ・「日」もいっぱいあるな。		
調べる	5 仲間分けできた漢字を、グループごとに発表する。 ・見つけた漢字を発表できてうれしいな。 ・同じ部分をもつ漢字は、けっこうたくさんあるんだね。おもしろいな。	10	D: 見つけた漢字を、同じ仲間ごとにロイロノートに記録させる。 ○ 友達と協力して活動させることで、漢字が苦手な子も意欲的に学習できるようにさせる。 ○ 机間指導し、活動が難しそうなグループには、同じ部分の漢字を教師が示し、見つけさせる等の配慮をする。 D: それぞれの学習カードを大型モニターで提示し、発表させる。 ○ 他のグループが見つけた同じ仲間の漢字を紹介し合うことで、学びを深めさせる。 ※ 同じ部分を意識して、漢字を見つけたたり書いたりできている。(発表内容、ノート記述)
	6 本時でがんばったことや楽しかったことを発表し、本時の学習をまとめる。 かん字には、同じぶぶんをもつなかが、たくさんある。		
振り返る	7 次時の学習を知る。		○ 本時の学習を振り返り、同じ部分をもつ漢字をたくさん見つけられたことや、気づいたこと等の感想を発表させる。
生かす			○ 59ページの文を音読して、同じ部分をもつ漢字を使って文を作ることができることを知らせ、次時への意欲をもたせる。

4 評価

- ① 漢字には同じ部分をもつものがあることに気づき、進んで見つけ出すことができたか。
- ② 漢字の同じ部分を見つけて、書くことができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】



【調べる・考える場面】



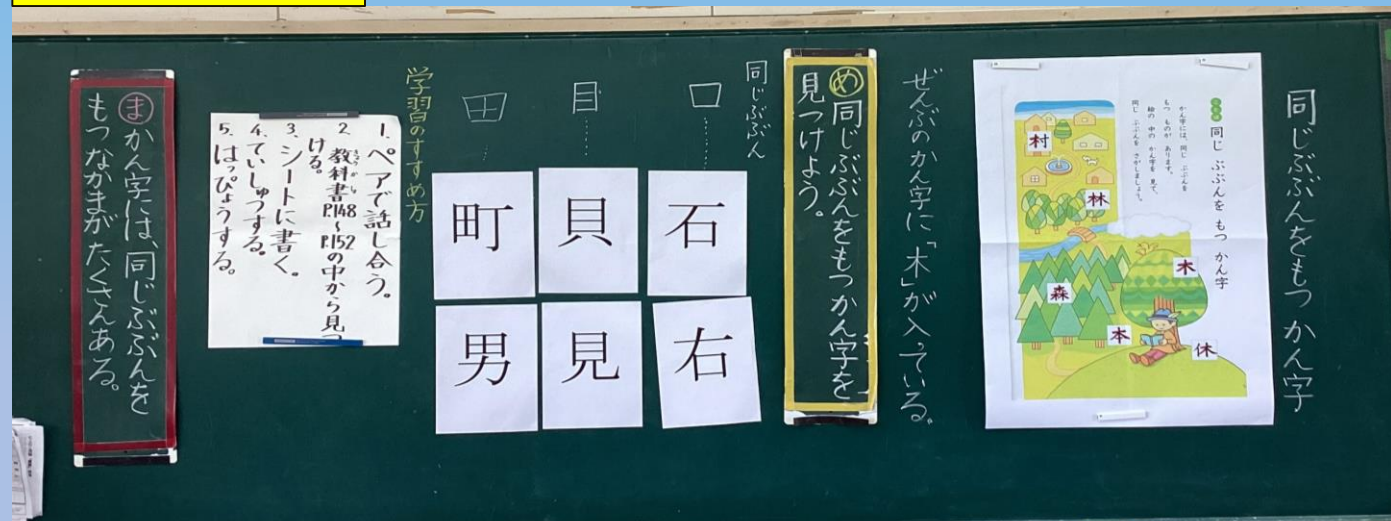
【深める場面】



【振り返る場面】



【板書】



同じ部分をもつ漢字を集める学習であった。集めた漢字を仲間ごとにタブレットに記入させたが、マス目がなかったため、うまく文字が書けない様子が見られた。仲間集めの活動にはタブレット端末の活用は有効であるが、集めた漢字を書く活動にはノートに手書きさせた方が望ましいと感じた。

事例04 小2 算数科

「大きい数のたし算とひき算」

【指導案】 資料提示、デジタルドリル

第2学年 算数科学習指導案

2年2組 30名
指導者

1 単元名 大きい数のたし算とひき算

2 本時 (8/12)

(1) 目標

- ① (百何) - (1, 2位数) の筆算の仕方について考える活動に意欲的に取り組むことができる。
- ② (百何) - (1, 2位数) の筆算の仕方を考えて、説明することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の指導では、(3位数) - (1, 2位数) の計算もこれまでの計算と同じように計算できるのではないかという見通しをもって学習させるために、既習の問題との違いを確認しながら授業を行っていきたい。

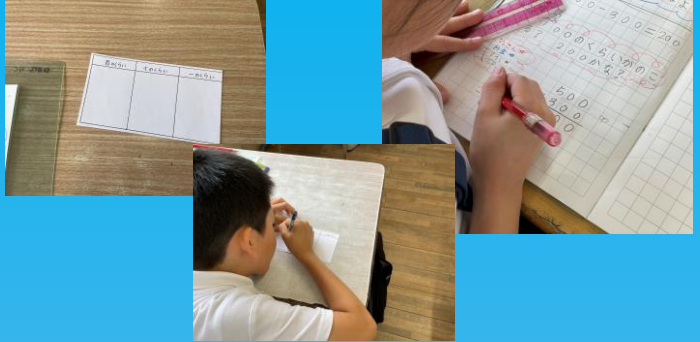
3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ 見通す	1 本時の学習問題に出会う。 105-78のひき算のしかたを考えましょう。	10	D: 前時と本時の学習問題に気づかせるために、大型モニターに本時の学習問題を提示するようにして、その違いに気づかせるようにする。
	2. 学習課題をつかむ。 十の位からくり下げることができないときのひき算はどうすればよいだろうか。		○ 学習への見通しを持たせるために、言葉かけをしながら児童の発言からめあてを設定するようにする。
	3. 解決の見通しをもつ。 ①ブロックで考えてみよう! ②くり下がりを2回使ってひき算でやってみよう!		○ これまでの学習を想起させ、どのような方法があるか全体で確認する。 ※ 自分の考えをノートにまとめることができている。(ノート記述)
調べる 深める	4. ブロックを使って計算の仕方を考える。 一人学習→ペア学習→全体学習 百のくらい 十のくらい 一のくらい 5. (百何) - (1, 2位数) の筆算の計算の仕方を考える。	25	○ 百や十、一などの位を意識して考えさせるために、ブロックを使って考えさせる際に位取り表を使用させる。 準備→位取り表 ○ 効果的にペア活動を行えるようにするために、一人学習で自分の考えを持たせてからペアでの活動をさせるようにする。
振り返る 生かす	6. 学習の振り返り・まとめをする。 十の位からくり下げられないときには、百の位からくり下げて、けい算すればよい。 7. 適用問題をする。	10	○ 学習して分かったことや感想をノートにまとめさせる。 ※ 感想やまとめをノートにしっかり書くことができている。(ノート記述) D: 本時の学習内容がしっかりと定着しているか確認するために、デジタルドリルを使って筆算の練習問題を解くようにする。

4 評価

- ① (百何) - (1, 2位数) の筆算の仕方について考える活動に意欲的に取り組むことができたか。
- ② (百何) - (1, 2位数) の筆算の仕方を考えて、説明することができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】

【調べる・考える場面】



【深める場面】

【振り返る場面】

【板書】

大きい数のたし算とひき算
 $105 - 78$

めあて
 十のくらいからくり下げることができないときのひき算はどうすればよくなるか。

し
 $105 - 78 = ?$

ようす ⇒ 先に十のくらいから？
 7をくり下げる？
 百のくらいをくり下げる？

百	十	一

まとめ
 十のくらいからくり下げることができないときは、百のくらいから十のくらいにくり下げ、-のくらいにくり下げればよい。

$$\begin{array}{r} 105 \\ - 78 \\ \hline 27 \end{array}$$

3位数の繰り下がりのあるひき算の導入場面で、大型モニターに学習問題を提示して比較させることで、前時との違いに気づかせることができた。終末部の適用指導の場面でデジタルドリルを活用して、本時の学習内容の定着や習熟を図ることができた。低学年でもデジタルドリルは有効であることが分かった。

事例05 小3 算数科

「たし算とひき算」

【指導案】ロイロノート、デジタルドリル

第3学年 算数学習指導案

3年1組 計24名
指導者

1 単元名 たし算とひき算
2 本時 (11/17)

(1) 目標

- ① 加法の交換法則や結合法則を活用しての計算のしかたに進んで取り組むことができる。
- ② (2位数)±(1,2位数)などの簡単な暗算を工夫して行うことができる。

(2) 本時の展開に当たって

加法には交換法則と結号法則があり、どちらも一の位をたして、10になることに気付かせるために、色々な方法の式を提示して考えさせるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印: タブレット活用
つかむ	1 学習問題を受け止める。 875+47+53 の計算のしかたを考えよう。	7	○ 問題場面を把握しやすくするために、2年時の学習を想起させる。
	2 学習問題をつかむ。 くふうして計算するには、どうすればよいだろうか。		○ 学習課題をしっかりとつかませるために既習問題との違いはどこかを問いかけ、児童の言葉で本時のめあてをたてるようにする。
見通す	3 解決の見通しをもつ。 ・じゅんじょよく計算しよう。 ・7+3からしたら10になる。	15	○ 解決の見通しをもつことができるようにするために、加法では、順番を変えても答えが同じになるということを小さい数で気付かせる。
調べる	4 自分なりに解決する。 ・自分で図や式を使って考える。 47+53を先に計算したら100になる。		※ 加法では、計算の順序を変えても答えが同じになることを用いて、計算の工夫をしようと考えている。(ノートの記述内容)
	5 考え方を出し合い、全体で解き方について話し合う。 ・そのまま計算したら、筆算が必要かも。 ・(47+53)=100、だから、875+100=975だ。		D: 多様な考えに触れさせるために、ロイロノートで自分の考えを提出して、意見交流を行うようにする。
深める	6 本時の学習をまとめる。 ・10や100を先に作る。 ・たし算は、じゅんじょをかえて計算しても答えは同じになる。	23	○ 児童の理解を確認するために、児童の言葉を使いながら、一緒に学習したことをまとめていく。
振り返る	7 適用問題に取り組み、同じ考えができるか確かめる。 ・教科書の適用問題に取り組む。 ・タブレットドリルに取り組む。		○ 本時の理解を確認するために、教科書の適用問題に取り組ませる。 ※ 2位数や1位数の簡単な暗算ができているか。(机間指導)
生かす	8 次時の学習内容を知る。		D: 本時の理解を深めるためにデジタルドリルの練習問題を解きかせ、ロイロノートで提出させる。

4 評価

- ① 加法の交換法則や結合法則を活用しての計算のしかたに進んで取り組むことができたか。
- ② (2位数)±(1,2位数)などの簡単な暗算を工夫して行うことができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【調べる・考える場面】



【深める場面】

【振り返る場面】

【板書】

⑤ たし算とひき算

めあて くふうして計算するには、どうすればよいだろうか。

見通し ② $875 + 47 + 53$ の計算のしかたを考えよう。

()
10のまとまり
じゅんじょく

$$875 + 47 + 53 = 875 + (47 + 53)$$
$$= 975$$
$$875 + (47 + 53) = 875 + 50 + 50$$
$$\begin{matrix} \text{た}3 & \text{ひ}3 \\ \text{た}3 & \text{ひ}3 \end{matrix} = 875 + 100 = 975$$

まとめ
・10や100を先につくる。
・たし算は、たすじゅんじょをかえても答えは、同じ。

③ 暗算をしよう。

① $35 + 46 = 81$

$$52 + 365 + 48 = (52 + 48) + 365$$
$$= 100 + 365$$
$$= 465$$

3つの数を工夫して計算する展開の場面で、ノートに書いた自分の考えをタブレットカメラで撮影してロイロノートで提出箱に提出。10や100のまとまりを作って計算するやり方を皆で共有し合って深めることができた。

終末部の適用指導の場面でデジタルドリルを活用して、本時の学習内容の定着や習熟を図ることができた。

事例06 小4 算数科 (3クラス4展開少人数指導) 「2けたでわるわり算」

【指導案】ロイロノート、デジタルドリル

第4学年 算数科学習指導案(少人数)

4年1組 計24名
指導者

- 1 単元名 2けたでわるわり算
2 本時(1/12)

(1) 目標

- ① 2けたでわる計算の仕方を考える活動に進んで取り組むことができる。
- ② 何十でわる計算の意味を考え、10を単位とした計算の意味を理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

10を単位とした計算の仕方を理解することができるようにするために、色紙図を利用し、自力による具体的な操作活動を設定する。また、学習したことの習熟を図るためにタブレットドリルを適用問題として取りこませるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印:タブレット活用
つかむ 見通す	1 学習問題に合う。 80まいの色紙を、1人に20まいずつ分けると、何人に分けられますか。 式 $80 \div 20$	10	○ 問題場面をより分かりやすく把握できるようにするために、デジタル教科書と色紙図を使って提示するようにする。 ○ 学習課題をしっかりとつかませるために、既習問題との違いはどこかを問いかけるようにして、子どもの言葉でめあてをたてるようにする。 ○ 解決の見通しをもつことができるようにするために、具体物や半具体物を操作して考えるようにさせる。
	2 学習問題をつかむ。 2けたでわるわり算は、どうすればできるのだろうか。		※ 進んで操作活をしたり、既習の見方・考え方をういたりして、正しい余りを確かめようとしている。(ノートの記述内容)
調べる	3 解決の見通しをもつ。 ・図をかく。・計算で考える。	17	D:ロイロノートで自分の考えを提出して、意見交流を行う。
深める	4 自分なりに解決する。 ・自分で図や式を使って考える。実際に20枚ずつにしたら、4つに分けられたから、答えは4になる。 5 考え方を出し合い、全体で解き方について話し合う。 ・8束を2束ずつに分けたら、4つに分けられる。 ・ $80 \div 20$ の答えは、 $8 \div 2$ の答えと同じになる。		○ 10を1とみる相対的な見方をはたかせている子どもを評価し、全体での共有を促すようにする。
振り返る	6 本時の学習をまとめる。 2けたでわるわり算は、10のまとまりの数で考えると、かんたんに計算できる。	18	○ 子どもの理解度を確認するために、子どもの言葉を使いながら、一緒に学習したことをまとめていく。 ○ 本時の理解を確認するために、教科書の適用問題に取りこませる。 ※ 10を単位とした見方を用いて、何十でわる計算ができています。(机間指導)
生かす	7 適用問題に取り組み、同じ考えができるか確かめる。 ・教科書の適用問題に取り組む。 ・タブレットドリルに取り組む。 8 次時の学習内容を知る。		D:本時の習熟を深めるためにタブレットドリルに取りこませる。

4 評価

- ① 2けたでわる計算の仕方を考える活動に進んで取り組むことができたか。
- ② 何十でわる計算の意味を考え、10を単位とした計算の意味を理解することができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】



【調べる・考える場面】



【深める場面】



【振り返る場面】



【板書】

7 2けたでわるわり算

① 2けたでわるわり算は、
どうすればよいだろうか。

(方法) 図、式文。

② 2けたでわるわり算は、
10のまとまりをもとにして
考えればよい。

(97-1) → $150 \div 30 = 5$
(10のまとまりで考える) $15 \div 3 = 5$

① $40 \div 20 = 2$
 $4 \div 2 = 2$

② $150 \div 50 = 3$
 $15 \div 5 = 3$

80 ÷ 5 → $5 \overline{)80}$
80 ÷ 10 → 10のたば

問 80まいの色紙を1人20まいずつ
分けると何人に分けられますか。

$80 \div 20 \rightarrow ()$
2けたわる

式 $80 \div 20 = 4$
(10のたばで考える)
 $8 \div 2 = 4$

学習問題の場面を把握しやすいようにするためにデジタル教科書の提示を行った。自分なりの解決方法を図や計算等を使ってロイロノートで自分の考えを提出させた。グループでの話し合い後に全体での共有の場を作った。今回はロイロノートで自分の考えを提出させたが、子どもたちが比較などの機能を使いこなすことができれば、もっと学習活動の幅も広がっていくと感じた。アナログとデジタルのどちらを活用すべきなのか、操作スキルや学習内容に応じて使い分けていきたい。最後はタブレットドリルで適用問題を行うことができた。

事例07 小5 道徳科 「自制する心」(A節度・節制)

【指導案】資料提示、ロイロノート

第5学年 道徳科学習指導案

5年1組 36名

指導者

- 1 主題名 自制する心 内容項目【A 節度、節制】
資料名 「流行おくれ」 出典：「小学道徳 生きる力」5年（日本文教出版）

2 本時

(1) 目標

- ① 自分の生活を振り返り、必要以上の自分自身の利害や欲望といった葛藤を乗り越え、常に節度ある生活をしようとする気持ちを高めることができる。
- ② 常に自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けることの大切さを自らの体験場面と関係づけながら理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

主人公に共感させながら、自分の言動を振り返り、節度ある生活をしようとする心情をもてるように心を揺さぶるような発問を設定したい。また、友達の多様な考えを共有するためにタブレット端末機能や話し合い活動を取り入れた授業を展開していきたい。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ○印 【評価規準】※印 D印:タブレット活用
つかみ 見通す	1 節度という言葉の意味を知り、節度のない自分の行動を振り返る。 2 めあてを確認する。 節度のある生活を送るために大切なことはなんだろうか。	5	D ねらいとする道徳的価値につながる質問をロイロノートのアンケート機能で事前に行い結果を提示する。 ○ 児童が安心して発言できるように傾聴する姿勢を大切にする。
考える	3 資料を読み、まゆみさんの行動について話し合う。 (1) 母の言葉に荒々しく部屋へかけ上がったときどんな気持ちだったのだろうか。 ・ 私だけ流行おくれになってしまう。 ・ 買って来てくれてもいいじゃない。 (2) うつむいている弟を見て、どのようなことを感じたのだろうか。 ○ 怒り ・ 勝手に入らないで。 ○ 後悔 ・ 本借りていたことを忘れていた。	18	○ 心の葛藤を促すために、母親と弟の言葉を提示して、その意味を深く考えさせるようにする。 D 主人公の弟へ対する怒りと反省(後悔)の心情を視覚的にも認識できるように、ロイロノートの赤・青カードで表現させるようにする。 ○ グループで話し合いを行い、多様な考えに触れることで、自分の考えを深められるようにする。 ※ 自分の考えをもち、積極的に話し合いに参加している。(話し合い活動)
深める まとめる	4 整理されていないたくさんものを見てどんなことを思ったのだろうか。 5 学習したことをまとめる。 本当に必要なことやものなのかよく考える。時にはがまんすることも大切である。	12	D アンケート機能を活用して表現することで、友達の考えを参考にし、自分の考えを深められるようにする。 ○ 節度について、一面だけでとらえることがないように、様々な視点があることを考えられるようにする。
振り返る	6 これから節度ある生活をするためにどうすればいいのか考えを書く。 7 教師の説話を聞く。	10	※ 自分の生活を振り返り、節度ある生活の意義をとらえ、行動につなげようとする考えをまとめている。(ノート記述)

4 評価

自分自身の生活を振り返り、節度を守って生活していこうとする心情を育てることができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】

【調べる・考える場面】



【深める場面】

【振り返る場面】

【板書】



導入段階での子供たちの考えや実態を事前にアンケート機能やテキストマイニングを用いることで視覚的に分かりやすく提示することができた。また、心情メーターも iPad 上で色を分けることで、子どもの考えが一目でとらえられることができ、お互いの考えを踏まえた話し合い活動を行うことができた。道徳の授業において、学習の展開や流れをある程度つくった上で、さらに主体的で対話的で深い学びが展開できるよう効果的な活用法を探っていきたい。

事例08 小5 音楽科 「いろいろな音色を感じ取ろう」

【指導案】動画視聴、ロイロノート

第5学年 音楽科学習指導案

5年2組 計36名

指導者

1 単元名 いろいろな音色を感じ取ろう

2 本時 (2/3)


(1) 目標

グループごとに曲の構成と音色の関係について、自分の考えをまとめた表を基に比較機能を使い、意見を共有して、新たな考えをもつことができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちの最終的な目標は、この曲のタイトルを考えることとしている。(第3時) するために、曲の構成や旋律を演奏する楽器の音色に注目してほしいことを導入で伝え、場面ごとに感じたことや聴こえてきた楽器の音色についてそれぞれで表を使ってまとめるようにする。また、新たな考えを持つために、まとめた意見をグループで比較機能を使い、共有する場を設定する。

3 実際

過程	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ 見通す	1 前時の学習した『ショスタコさんのつぶやき』を鑑賞する。	10	○ 前時の学習を振り返るために、曲全体の構成(ファンファーレ、第一主題、第二主題がそれぞれ前半と後半の旋律に表れて演奏されていたこと)に着目しながら振り返らせるよう助言する。 ○ この曲のタイトルをつけるには場面ごとに感じ取ったことや、聴こえてきた楽器の音色に注目してほしいことを伝え、めあてを設定していくようにする。
	2 本時のめあてを確認する。 場面ごとの楽器の音色に注目してきこう。		
調べる	3 場面ごとに『祝典序曲』を視聴する。	15	D: 個人で教師から配布されたカードを使い、場面ごとに動画を視聴するようにする。 D: カードに場面ごとで『感じたこと』、『楽器の音色』について気づいたことを入力し、教師へ提出させる。 ※ 自分の考えを場面ごとに表にまとめている。(カード記述内容)
	4 個人でカードに入力して、提出する。 		
深める	5 グループで意見を共有する。	10	D: グループで比較機能を使い、それぞれの意見を共有させる。 ※ 意見を共感したり、新たな考えを持つたりしている。(発言内容等)
振り返る	6 本時の学習を振り返り、まとめる。 前半から後半にかけて楽器の音色が増えていっている。	5	D: 例としていくつかのカードを提示し、曲の構成と音色の関係についてまとめる。

4 評価

グループごとに曲の構成と音色の関係について、自分の考えをまとめた表をもとに比較機能を使い、意見を共有して、新たな考えをもつことができたか。

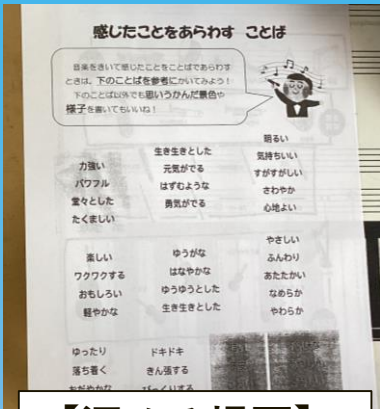
【タブレット端末の活用場面】



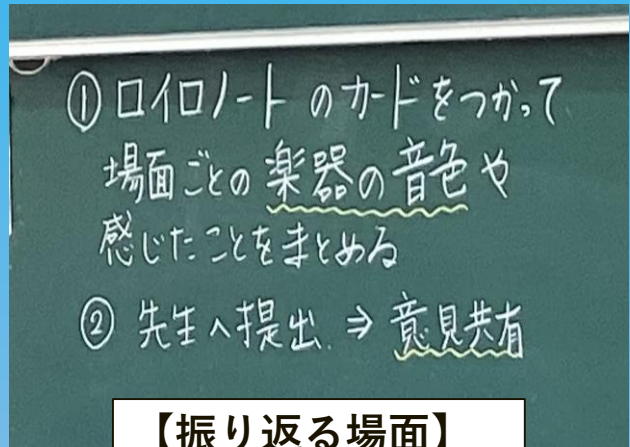
【つかむ場面】



【調べる・考える場面】

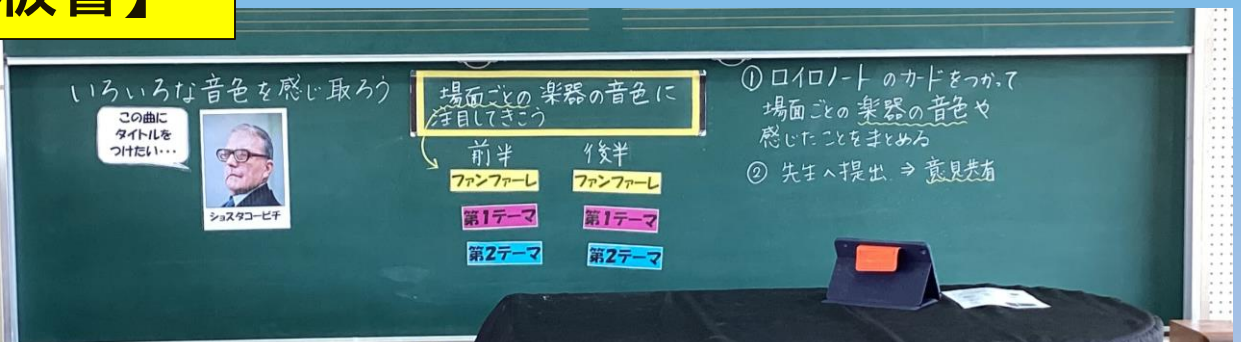


【深める場面】



【振り返る場面】

【板書】



『祝典序曲』で演奏している楽器の音色や感じたことを場面ごとに視聴し、ロイロノートのカードにそれぞれまとめた。個人によってすぐ記入できる子もいれば、じっくり視聴したい子もいたので、ヘッドセットを使うことによって、鑑賞の質が今までよりも高くなったように感じた。ロイロノートの比較機能を使い、グループで意見の共有や新たな考えに気づく場面では、文字が小さく比較がしづらかったように見えたので、比較機能を使う時は文字が大きいものや、一目で見てわかるものを使うのが効果的だと思った。

事例09 小5 社会科 「米づくりのさかんな地域」

【指導案】資料提示、ロイロノート

第5学年 社会科学習指導案

5年3組 計 36名
指導者

- 1 単元名 米づくりのさかんな地域
- 2 本時 (4/8)

(1) 目標

- ① 米づくり農家が生産性を高めるために行った工夫について自分なりの予想を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ② 耕地整理の前後や昔と今の米づくりなどの写真を比較しながら、農家の人々の工夫や努力について考え、表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

導入段階で生産性の向上に着目することができるようにするために、米づくりの大変さを出し合い、調べる視点を焦点化する。また、複数の資料から工夫を見いだすことができるようにするために、比較を促したり関連付けたりする問い掛けや思考ツールの活用を図りたい。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ	1 労働時間の変化のグラフを見て 気付きを出し合う。 2 学習問題をつかむ。 米づくり農家の人々は、生産性を 高めるためにどのようなふうを してきたのだろうか。	10	D 生産性の向上に着目するために、前時の農作業暦をタブレット端末で共有し、米づくりには膨大な時間と人々の協力が必要であることを想起させる。 ○ 米づくり農家の工夫に焦点化して学習に取り組めるようにするために、資料を提示し気付きを出し合う時間を設ける。
見通す			
調べる	3 問題に対して予想し、調べる内容や方法について話し合う。 ・ 機械化 (昔と今の比較) ・ 田の形 (昔と今の比較) 4 農家の人々の工夫について話し合う。 ・ 耕地整理→機械が入りやすい。 ・ 機械→短時間で多くの収穫。	25	○ 解決の見通しをもつことができるようにするために、予想で出てきたキーワードを板書する。 ※ 米の生産性を高めるために工夫していることを予想したり、自ら調べたりしようとしている。【主】(ノート・タブレット端末) D 機械化や耕地整理を生産性の向上に関連付けるために、資料をタブレット端末で配布し、気付きを書き込むようにする。
深める			
まとめる	5 本時の学習をまとめる。 米づくり農家の人々は、耕地整理や機械化を進めることで、米の生産性を高めることができた。	10	○ 調べたことを基に文章でまとめるために、出てきたキーワードを板書する。 ※ 農家の人々が米の生産性を高めるために工夫していることを表現している。 【思・判・表】(ロイロノートの提出箱) D 本時の学習について振り返るために、分かったことを、タブレット端末で関係図にまとめるように指示する。
振り返る	6 本時の学習を振り返る。		

4 評価

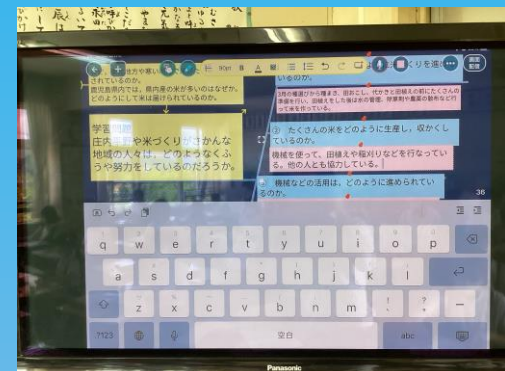
- ① 米づくり農家が生産性を高めるために行った工夫について自分なりの予想を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしていたか。
- ② 耕地整理の前後や昔と今の米づくりなどの写真を比較しながら、農家の人々の工夫や努力について考え、表現することができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】

【調べる・考える場面】



【深める場面】

【振り返る場面】

【板書】

6/17 (木) 米づくりのさかんな地域

めあて 米づくり農家の人は、生産性を高めるために、どのように機械が活用されているのか。

昔 人の力 → 今 機械 } 機械化
 時間多 → 時間短
 人数多 → 人数少

150馬を従つて手作業 → トラクター (320馬力)
 田植え → 田植え機 (130馬力)
 稲刈り → コバシ (50馬力)

手間がかかる、時間がかかる、準備が大変そう → 手間は減る、移動時間が減る、準備が楽になる

機械の開発が進んだ → 早く米をとりに、少ない時間で安く生産している、生産性を高める

田の形が四角形に変わった。道路が広くなった。何のために？ 機械が作業しやすい、通りやすくなる

まとめ 米づくり農家の人は、**耕地整理**を行い、**機械**を使いやすくして、生産性を高めている。

大型モニターやタブレット端末で資料を提示することで、資料から読み取れることを子ども一人一人が考えたり、発言したりすることができた。また、シンキングツールを用いることで、比較を促し共通点や差異点を見つけながら、子どもが資料を通した思考活動を行うことができた。シンキングツールは、各教科等で用いることで慣れてきつつある。どんなときにどのような思考を働かせるのが効果的か、教材研究とともに追究していく必要がある。

事例10 小6 社会科 「天皇中心の国づくり」

【指導案】 ロイロノート、デジタル版評価シート

第6学年 社会科学学習指導案

6年1組 計34名
指導者

- 1 小単元 天皇中心の国づくり
2 本時 (4/7)

(1) 目標

- ① 聖武天皇がどのようにして世の中を治めようとしたか粘り強く追究する活動に進んで取り組むことができる。
② 聖武天皇が国分寺建設の詔を出した背景を粘り強く追究する活動を通して、仏教の力で社会の不安を鎮め、政治を安定させようとしたことを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

都が平城京に移された頃、都は賑わいを見せていたことに気付かせ、安定した世の中が続いたのか多角的に追究できる学習問題を設定するようにする。また、追究過程においては、年表や分布図などの資料を選択して調べ、都でも病気が蔓延して不安が広がっていたこと、地方では苦しい生活に耐えきれず反乱を起こす人々がいたこと、それらの不安を鎮めるために聖武天皇が国分寺建設の詔を出したことなどを考えさせる活動を設定するようにする。

3 実 際

領域	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ・見通す	1 平城京の暮らしぶりを確かめ、本時における学習問題を具体化する。 平城京に都が移ったころ、世の中ではどのようなことが起こっていたか。	10	○ 本時の学習問題を焦点化するために、写真や動画資料を通して、平城京は地方からの様々な産物によって賑わっていたことに気付かせるようにする。 ○ 子どもの予想を類型化することを通して、追究の柱を確かめるようにする。 D： 資料は、ロイロノートを活用して子供に送信する。協働学習では、ペア調べを行った後に分かったことを班で交流する。その際、それぞれが調べた社会的事象を総合して判断したり、関連付けて考えたりしている班を賞賛することで、子供の社会的な見方・考え方が働くように促す。 D： 学習問題に対する答えをSSGsにまとめさせてロイロノートで提出させることで、磨き合いを促す。その後、学習問題に対して明らかになった事実を振り返りながら確認し、本時のまとめを全体で共有する。 ※ 資料を総合したり、関連付けたりすることを通して、聖武天皇が、仏教の力で社会の不安を鎮め、政治を安定させようとしたことを理解している。 (ロイロノート内SSGs記述) ○ 聖武天皇が出した大仏づくりの詔に触れることを通して、次時の学習への見通しを持たせる。
	2 学習問題に対する予想を考え、学習の進め方や資料について確かめる。 3 学習問題に対する調べ学習を行う。 【追究の柱】①都の生活②地方の生活③聖武天皇が行ったこと		
調べる・深める	4 奈良時代の世の中の様子や聖武天皇が世の中を安定させるためにしたことについて話し合う。 【都の生活】 ・地方からの産物でにぎわう。 ・都で病気が流行する。 ・自然災害に見舞われる。 【地方の生活】 ・重い税の負担に苦しむ。 ・苦しい生活に耐えかねて反乱を起こす。	20	
	【聖武天皇のしたこと】 ・不吉な場所を恐れ、都を次々に移す(5年に4回)。 ・全国各地に国分寺を建てさせ、大仏建立の詔も出す。 ・仏教の力で不安を鎮め、政治を安定させようとした。		
振り返る・まとめる	5 本時の学習についてまとめる。 都でも地方でも、社会全体に不安が広がっていた。そんな社会の不安を仏教の力でしずめるため、聖武天皇は、全国に国分寺を建てさせた。	15	
	6 次時の学習への見通しを話し合う。		

4 評 価

- ① 聖武天皇がどのようにして世の中を治めようとしたか粘り強く追究する活動に進んで取り組むことができたか。
② 聖武天皇が国分寺建設の詔を出した背景を粘り強く追究する活動を通して、仏教の力で社会の不安を鎮め、政治を安定させようとしたことを理解することができたか。

【タブレット端末の活用場面】



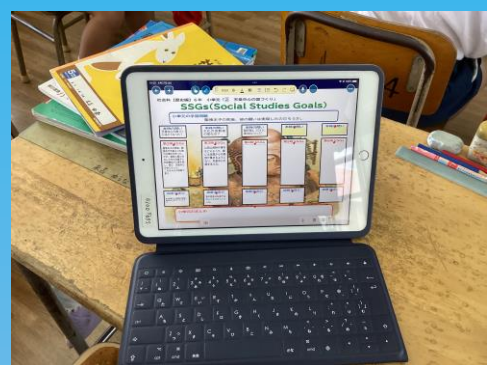
【つかむ場面】



【調べる・考える場面】



【深める場面】



【振り返る場面】

【板書】

社会全体が不安定 仏教の力 国分寺

6/27 (火) P28 5-29

2-2 天皇中心の国づくり④
大化の改新後 日本初の都ができた **藤原京**

奈良時代のスタート!!
平城京に都が移ったころ、世の中では、どのようなことが起こっていたか。

都の人々の生活
都へ運ばれた各地の産物

聖武天皇が行ったこと
724年 天皇の位につく
都を5年と千回も移して世の中を安定させようとした。
全国に国分寺を建てさせ、仏教の力で世の中の不安を治めようとした。

地方の人々の生活
国を治める法律(律令)によって、都に税を納めなければならなくなった。
地方の人々の生活

国分寺の分布

予想
天皇中心の国を継続
都は地方からの産物でにぎわう。
貴族が集まる 文化の発展

関連付ける
社会全体が不安定に
税に苦しむ人は逃げ出したり、反乱を起したりするようになり、

1 休み時間に準備
2 一分前に席に着く
3 発音に気をつける
4 まっすぐ手を上げ、大きく話す
5 読んで学習

子どもの予想から追究の柱を設定し、柱を選択して追究活動を行うことができた。歴史学習の2単元目ということもあり、子どもたちが学習の進め方を習得しつつあることも感じられた。本時では、柱同士を「関連付ける」という新たな思考方法にもチャレンジした。どのように考えればよいか戸惑う子供も見られたため、繰り返し経験させることで、学び方を習得させていく必要があると感じている。

デジタルSSGs（デジタル版ワークシート、自己評価カード）を活用して本時のまとめを入力させることで、獲得した知識を関連付けながら思考する姿も見られた。今後も、繰り返し取り組んでいきたいと思う。

事例11 小6 外国語科

「Let's go to Italy」

(New Horizon Elementary Unit3)

【指導案】 デジタル教科書、ロイロノート、カメラアプリ、ヘッドセット等

第6学年 外国語科学習指導案

6年2組 計35名

指導者 JTE
AEA

1 単元名 Let's go to Italy. (「New Horizon Elementary 6 Unit 3」)

2 本時 (4/8)

(1) 目標

自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、おすすめの国とその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどをよりよく伝え合うことができる。

(2) 本時の展開に当たって

導入では、学習計画を基に、総合的な学習の時間「わたしたちの行ってみたい国」の学習で得た知識を活用することを確認し、知的好奇心を刺激したい。展開では、一人一台端末を活用させたり、学習形態を工夫して既習表現をコミュニケーションに取り入れさせたりするなど、個別最適かつ協働的な学びを充実させたい。終末では、自己の成長や課題に気付かせ、学びの自覚化を図りたい。あわせて、単元を通して、間違えながらも言語活動を通して言語材料を繰り返し使い、自己調整しながら身に付けさせていく「うるし塗り指導」を行いたい。

3 実際

過程	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働き掛け ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
出会う・見通す	1 挨拶	5	○ 学習の雰囲気を高めるために、既習表現を使い、日付、天気などについてやり取りをする。 ○ 子供が目的や場面、状況を意識し、見通しを持って学習に取り組むことができるようするために、学習計画を確認させる。
	2 Sounds and Letters 「Vv, Ww」		
	3 めあて おすすめの国でできることや感想を伝え合おう。		
慣れる・挑戦する・広げる	4 チャンツ おすすめの国やその理由を表す表現を練習する。 【単語】 国, 食べ物, 味 【表現】 ～ is a nice country. You can ～. It's ～.	15	D 自信を持ってコミュニケーション活動に取り組むことができるようにするために、チャンツを通して単語や使用表現に慣れ親しませる。その際、デジタル教科書を活用し、自分のペースで単語の発音練習をさせ、次の言語活動につなげるようにする。 D おすすめの国のよさがより伝わるようにするために、「Picture Dictionary」を活用して、感想を付け加え、練習させるようにする。 D より良い発表につなげるために、一人一台端末を活用して互いの発表の様子を撮影し合い、助言し合ったり、客観的に自分の発表を見たりさせる。そして、また、学びの共有化を図るために、自己の課題を捉え、ロイロノートで可視化するようにする。 ※ 自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、行ってみたい国とその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを話している。 【思(話・発)】(観察) ※ 【同上】話そうとしている。【主(話・発)】
	5 シンキングタイム (1) おすすめの国でできることや感想など、セリフを膨らませる。 (2) 発表のポイントを共有する。	20	
	6 アドバイスタイム (1) ペアで練習し、助言し合う。 (2) 自分の課題に気付き、練り上げる。		
	7 Let's Read and Write (1) 「わたしのセリフ」におすすめの国でできることの感想を書く。 (2) 指で追いながら読む。		
	振り返る	8 振り返り ・学習到達目標に照らして ・自由記述で	
9 挨拶		5	

4 評価

自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、おすすめの国とその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどをよりよく伝え合うことができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】

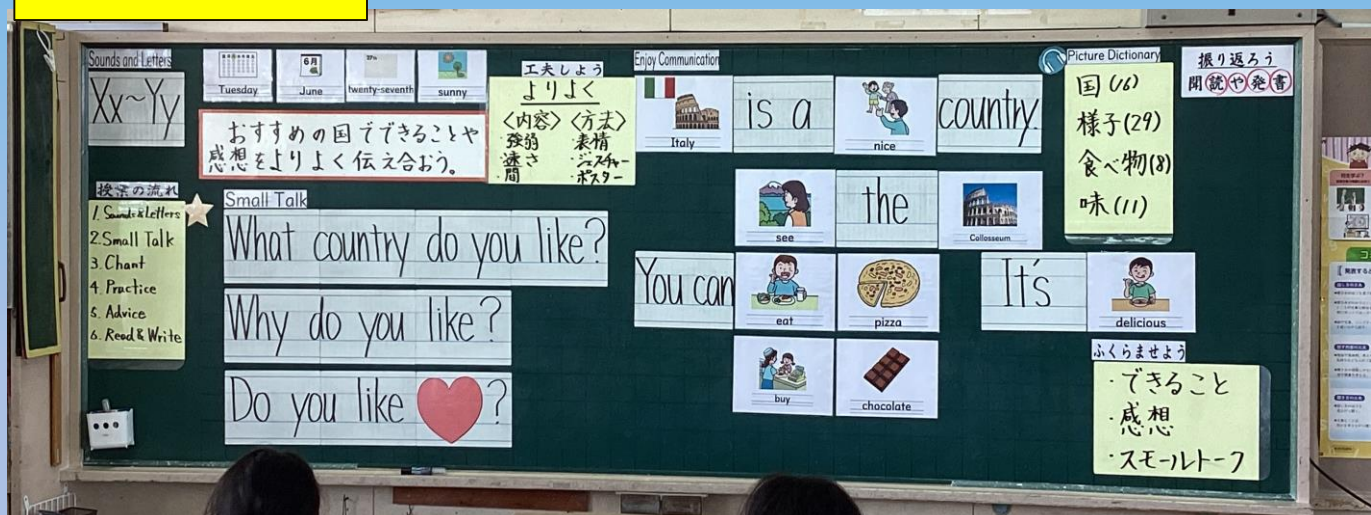
【調べる・考える場面】



【深める場面】

【振り返る場面】

【板書】



学習者用デジタル教科書を使ってヘッドセットを着用して自己の課題に応じた発話練習をさせることができた。また、自分の英会話表現の様子を動画撮影したことで、自己の発表を客観的に振り返りながら、課題に気付かせることもできた。

事例12 小6 理科

「生物のくらしと環境」

【指導案】 デジタル教科書、ロイロノート

第6学年 理科学習指導案

6年3組 計35名
指導者

- 1 単元名 生き物のくらしと環境
2 本時 (1/6)

(1) 目標

- ① 生物の他の生き物や周りの環境との関わりに興味・関心をもち、食べ物を通じた生物の関わりについて意欲的に調べることができる。
② 人の食べ物の元をたどって、調べたことやそれから考えられることを自分の言葉で表現し、課題解決に向けてグループで話し合ったり、考えたりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

人や他の動物が食べる物を調べる活動を通して、分かったことから課題解決につなげるために、ロイロノートに自分の考えを書いたり、グループでの話し合いができるようになったりする手立てを行うようにする。

3 実際

過程	主な学習活動 予想される児童の反応 教師の言葉かけ	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ	1 既習内容を振り返り、生き物が生きていくためには何が必要か話し合う。 ・動物は呼吸で酸素を取り込んだり、小腸などから養分を吸収していたね。 ・植物は根から水を取り込んでいたよ。 2 学習課題をつかむ。 生き物は食べ物をとおして、どのようにかかわり合っているのだろうか。	7	D：1学期の学習内容を想起させ、人や動物、植物が生きるために何を必要としていたか、振り返る活動を設定する。
見通す	3 予想する。 私たちの食べ物は、どのような物からできているかな。	3	D：学習課題の焦点化が図れるようにするために、デジタル教科書を活用し、人やほかの動物がどのような物を食べているか考えさせようとする。
考える・調べる	4 図や写真を基に調べる。 ・カレーライスには米や野菜、肉が入っているね。 ・豚や牛は何を食べているのかな。	10	○ 課題を解決するには、食べ物の材料の元をたどるとよいことに気付かせ、予想させるようにするために、これまでの学習から食べ物に着目するよう助言する。 ○ 子どもたちが興味をもって調べられるようにするために、カレーライスを例にして、人の食べ物がどのような物からできているか調べさせるようにする。
深める	5 調べたことを考察する。 ・人はいろいろな動物や植物を食べているね。 ・豚や牛などの動物が食べている物は植物だね。	15	D：ロイロノートにそれぞれの考えを書かせ、グループ内で発表し、個の考えを深めることができるようにする。 D：ロイロノートを活用し、グループで出た意見をまとめ、全体で話し合える場を設定するようにする。
振り返る	6 本時のまとめをする。 人や肉になる動物の食べ物のもとをたどると、植物に行き着く。	6	○ 各グループから出てきた意見や考えを集約し、本時のまとめになるようにする。
生かす	7 本時の学習を振り返る。 人の食べ物のもとには植物だけけど他の生き物はどうか。	4	○ 次時の学習への意欲を高めるために、人や肉になる動物以外の自然の中での動物の食べ物はどうなっているのか、問いかけをしたり、資料の提示をしたりする。

4 評価

- ① 生物の他の生き物や周りの環境との関わりに興味・関心をもち、食べ物を通じた生物の関わりについて意欲的に調べることができたか。
② 人の食べ物の元をたどって、調べたことやそれから考えられることを自分の言葉で表現し、課題解決に向けてグループで話し合ったり、考えたりすることができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】

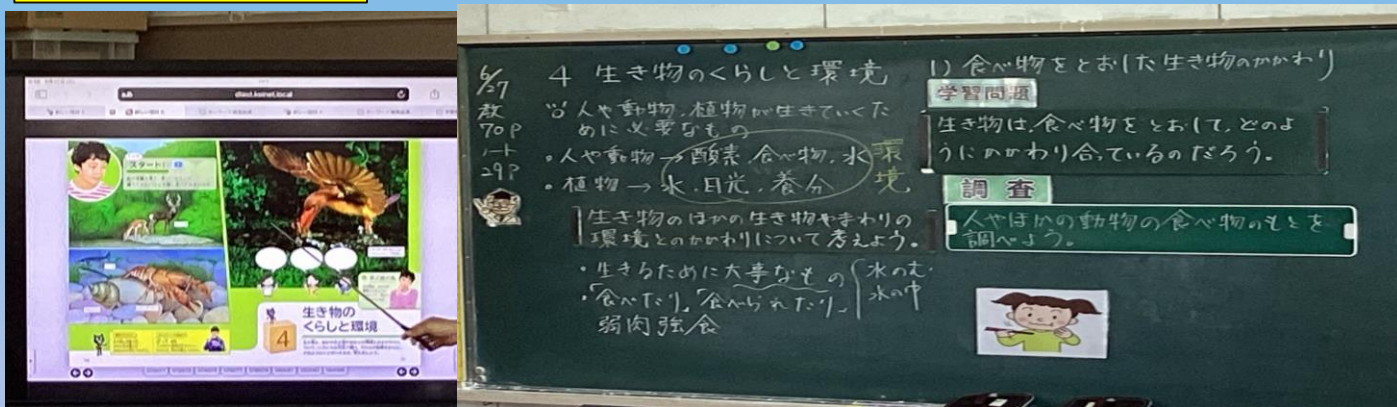
【調べる・考える場面】



【深める場面】

【振り返る場面】

【板書】



「空気」「動物」「植物」など、人間の周りの環境とのかかわりに関する1学期の既習内容をロイロノートを使い、振り返る活動を入れた。ヒトや動物の食べ物のもとを辿る中で、気付いたことをロイロノートを使って、調べて記入させる個別学習からグループでの話し合いをして深めていく展開を進めていったが、考えや話し合いにやや深まりがなく、再考の必要性を感じた。食物連鎖や環境問題等の視点から話し合いを深める学習活動の設定やタブレットを活用して自分の考えを発表したり意見を交流したりする機会を数多く経験させる必要があると感じた。

事例13 特別支援（知的） 生活単元学習 「おいもを そだてよう」

【指導案】カメラアプリ、ロイロノート

特別支援学級(せせらぎ学級) 生活単元学習指導案

2組 2年1名 3年3名 計4名
指導者

- 1 単元名 おいもを そだてよう
2 本時 (5/7)

(1) 目標

- ① どれぐらい育っているか、葉の数やつるの長さの成長を意欲的に調べることができる。
- ② 成長の変化が分かり、感じたこと、気づいたことなどを自分なりに表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

どれぐらい育ったか分かりやすくするために、葉の数やつるの長さに着目したり、ひと月前の観察メモや写真を使って比較したりして調べることができるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ 見通す	1 2枚の写真を見比べる。 2 学習問題をつかむ。【目標】 どれぐらいそだっているだろうか	7	D：成長が分かるようにするために、ひと月前の写真を提示する。 ○ 学習に見通しをもって取り組めるようにするために、学習の順番を提示したり、葉の数やつるの長さに着目したりして比較することを確認するようにする。
	3 解決の見通しをもつ。 ・1か月前のメモと見比べる。 ・数や長さを比べて、調べる。		
調べる 深める	4 1か月前と今回の観察メモを比較する。 ・2枚の観察メモを並べて写真に撮って見やすくする。 5 葉、つるの長さがどれぐらい成長しているか調べる。【山場】 ・ひき算 6 調べたことを発表する。	23	D：2枚の観察メモを比較しやすいようにするために、並列して写真に撮るように助言する。 ○ ひき算を使うよさが分かるために、ヒントカードを提示する。 ※ 意欲的に比較して調べている。(行動観察、発言、ワークシート) D：ワークシートをタブレットカメラで撮影、提出するように助言する。
	7 本時の学習をまとめる。 はっぱの数がふえて、つるのものびて、ぐんぐんそだっている。		
振り返る 生かす	8 カードに書く。【見届け】 9 次の学習を知る。	15	○ どれぐらい育ったかを振り返り、これからの成長を予想することで、草取りなどのお世話をする意欲を高めることができるようにする。 ※ 感じたこと、気づいたことなどを自分なりに表現している。(ワークシート)

4 評価

- ① どれぐらい育っているか、葉の数やつるの長さなどの成長を意欲的に調べることができたか。
- ② 成長の変化が分かり、感じたこと、気づいたことなどを自分なりに表現することができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】

【調べる・考える場面】



【個別指導の場面】

【板書】

① 2回分写真

② 葉の数

③ 長さ

10とつる
1. 9 につ
2. 8 につ

$\begin{array}{r} 3 \times 10 \\ - 12 \\ \hline 29 \end{array}$

どれぐらいそだっているだろうか。(はば(葉)くき)

① 葉の数 (何まいふえた?)

$\frac{5}{26}$ (12まい)	$\frac{6}{23}$ (41まい)	29まい
ひき算でできるぞ。	41-12	
	25-10	15まい
	12-7	5まい
	33-9	24まい
	64-11	53まい

② 長さ (どれだけのびた?)

$\frac{5}{23}$	$\frac{5}{26}$	のびた
22cm	11cm	11cm
25cm	19cm	16cm
20cm	21cm	1cmふえて
22cm	14cm	8cm
40cm	12cm	28cm

葉がふえて、くきの長さものびて、そだっている。

ひき算の名人が
・大きさ・形・色
・長さ・数
・におい
・音
かきわけた感じ
ひき算のなかから
見る、きこえる

むらさき色か
ふえている
においが草→やみ

特別支援学級（知的）における実践である。サツマイモの成長について5月と6月に観察してタブレット端末カメラで撮影した写真を見比べる活動を通して大きくなっていることを視覚的にとらえさせることができた。葉の数がどれぐらい増えたか、茎の長さがどれくらい長くなっているか、それぞれの月の観察記録を見比べながらひき算を使って表すことができた。

事例14 特別支援（情緒） 算数科 「たし算とひき算」

【指導案】ロイロノート、デジタルドリル

特別支援学級（せせらぎ学級）

算数科学習指導案

3組 3年
指導者

計6名

1 単元名 たし算とひき算
2 本時 (11/17)

(1) 目標

- ① 加法の交換法則や結合法則を活用しての計算のしかたに進んで取り組むことができる。
- ② (2位数) \pm (1, 2位数)などの簡単な暗算を工夫して行うことができる。

(2) 本時の展開に当たって

加法には交換法則と結号法則があり、どちらも一の位をたして、10になることに気付かせるために、色々な方法の式を提示して考えさせるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ 見通す	1 学習問題を受け止める。 875+47+53 の計算のしかたを考えよう。	7	○ 問題場面を把握しやすくするために、2年時の学習を想起させる。
	2 学習問題をつかむ。 くふうして計算するには、どうすればいいだろうか。		○ 学習課題をしっかりとつかませるために既習問題との違いはどこかを問いかけ、児童の言葉で本時のめあてをたてるようにする。
調べる 深める	3 解決の見通しをもつ。 ・じゅんじょよく計算しよう。 ・7+3からしたら10になる。	15	○ 解決の見通しをもつことができるようにするために、加法では、順番を変えても答えが同じになるということを小さい数で気付かせる。
	4 自分なりに解決する。 ・自分で図や式を使って考える。 47+53を先に計算したら100になる。 5 考え方を出し合い、全体で解き方について話し合う。 ・そのまま計算したら、筆算が必要かも。 ・(47+53)=100、だから、875+100=975だ。		※ 加法では、計算の順序を変えても答えが同じになることを用いて、計算の工夫をしようと考えている。(ノートの記述内容) D: 多様な考えに触れさせるために、ロイロノートで自分の考えを提出して、意見交流を行うようにする。
振り返る 生かす	6 本時の学習をまとめる。 ・10や100を先に作る。 ・たし算は、じゅんじょをかえて計算しても答えは同じになる。	23	○ 児童の理解を確認するために、児童の言葉を使いながら、一緒に学習したことをまとめていく。
	7 適用問題に取り組み、同じ考えができるか確かめる。 ・教科書の適用問題に取り組み。 ・タブレットドリルに取り組み。 8 次時の学習内容を知る。		○ 本時の理解を確認するために、教科書の適用問題に取り組ませる。 ※ 2位数や1位数の簡単な暗算ができているか。(机間指導) D: 本時の理解を深めるためにデジタルドリルの練習問題を解かせ、ロイロノートで提出させる。

4 評価

- ① 加法の交換法則や結合法則を活用しての計算のしかたに進んで取り組むことができたか。
- ② (2位数) \pm (1, 2位数)などの簡単な暗算を工夫して行うことができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】



【調べる・考える場面】

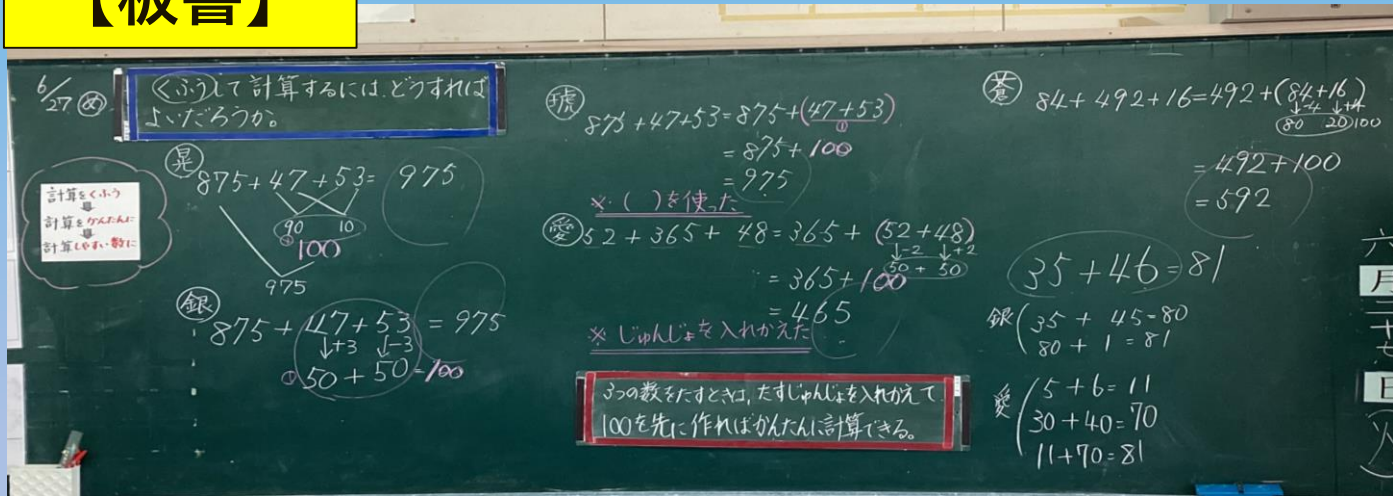


【深める場面】



【振り返る場面】

【板書】



特別支援学級（情緒）における実践である。交流学級と同内容を少人数できめ細やかに実施。3つの数を工夫して計算する場面で、ノートに書いた自分の考えをタブレットカメラで撮影してロイロノートで提出箱に提出。10や100のまとまりを作って工夫して計算するやり方を皆で共有し合って深めることができた。終末部の適用指導の場面でもデジタルドリルを活用して、本時の学習内容の定着や習熟を図ることができた。

事例15 特別支援（知的） 生活単元学習 「買い物をしよう」

【指導案】 資料提示、ロイロノート、カメラアプリ

特別支援学級（せせらぎ学級） 生活単元学習指導案

6組 4年生 計2名
指導者

1 単元名 買い物をしよう

2 本時（3/5）

（1）目標

- ① 品物を選び、必要な金額を用意して買い物をする活動に意欲的に取り組むことができる。
- ② 買い物の手順や店員とのやり取りに応じて硬貨を出すことができる。

（2）本時の展開に当たって

教室で模擬買い物を体験することで、実生活でも買い物ができるようにするために、前時の学習をタブレットの画像で振り返らせ、お金の出し方を練習するようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準】※印 D印：タブレット活用
つかむ・見通す	1 学習問題をつかむ。 お金の出し方や、やり取りの仕方に気を付けてしよう。	10	D：お金の種類やお客と店員のセリフを確認するために本時のワークシートをロイロノートで事前に提示するようにする。 ○ 児童が安心して活動に取り組めるようにするために、前時の学習を確認するようにする。
	2 お金の種類や買い物の手順を確認する。		○ 商品は2つまでにして、金額が分かるようにカードを見せるように助言する。 ※ あいさつやお金の出し方など手順に沿った対応。（活動の様子）
体験する	3 店員とお客に分かれて買い物を する。 店員：こんにちは、いらっしゃいませ お客：いくらですか？ 店員：計算して合計金額を伝える お客：お金を出す 店員：おつりとレシートをわたす、ありがとうございました	25	D：自分の活動を振り返ることができるようにするために、タブレット端末カメラで動画に撮って録画しておき、活動後に振り替えられるようにする。
	4 どちらの役も体験する。		○ 入力が難しい児童は、教師が付き添いながらサポートする。
まとめる・振り返る	5 本時の学習をまとめる。 ・買い物を体験して難しかったところや楽しかったことなど感想をタブレットに入力する。	10	D：本時の活動を振り返らせるために、タブレット端末内のワークシートを記入させる。 ○ 動画を見せて、よかったところを伝え賞賛する。 ○ 実生活の中でも、自分で買い物をする機会を作り、お金の大切さを実感してみるよう助言する。
	6 本時の学習を振り返る。		

4 評価

- ① 品物を選び、必要な金額を用意して買い物をする活動に意欲的に取り組むことができたか。
- ② 買い物の手順や店員とのやり取りに応じて硬貨を出すことができたか。

【タブレット端末の活用場面】



【つかむ場面】



【調べる・考える場面】



【深める場面】



【振り返る場面】



【板書】



タブレット端末画面に前時の学習でまとめたメモを保存しておき、買い物をする場面でそのメモを見ながら、お客とのやり取りをすることができた。また、店員とお客のやり取りを動画に撮り、その動画を見ながら振り返ることで次の課題に気付かせることができた。